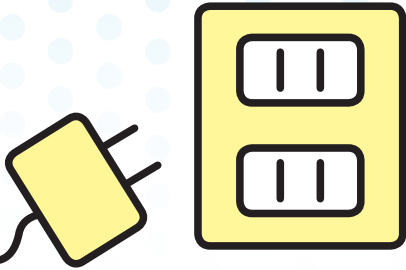


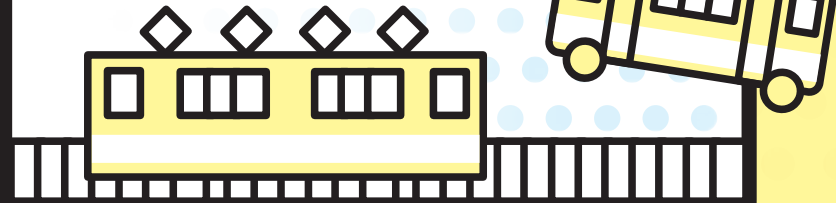
あてはまるものに
チェックを!



使うときだけ
コンセントを入れる



電車、バスなどの
公共交通や、
自転車をよく使う



脱炭素

●問い合わせ

— も く じ —

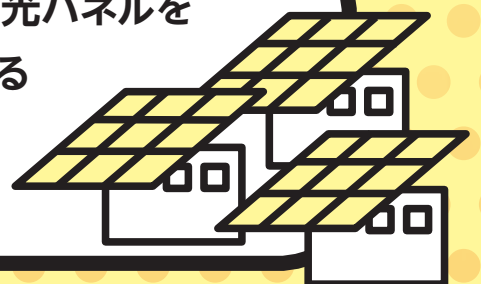
脱炭素シテル?	2
新型コロナワクチン接種情報、 マスクの着用3つのポイント	6
災害に備えて	7
子育て世帯に対する特別給付金、 不妊治療の助成を拡大	8
臨時特別給付金 (10万円)	9
新しい保険証の送付	10
国民健康保険税引き下げ	11
長野県知事選挙	12
自転車のルール遵守	14
松本市公式LINE受信設定、 指定管理者募集、 生ごみの出し方	15
情報チャンネル	16
8月の相談日	27
松本マラソン2022参加者募集 松本市美術館企画展	28



テレビを見る時間やゲームをする
時間を減らすように心がけている

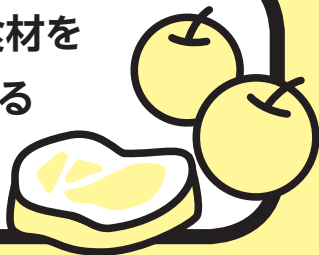


自宅に太陽光パネルを
設置している





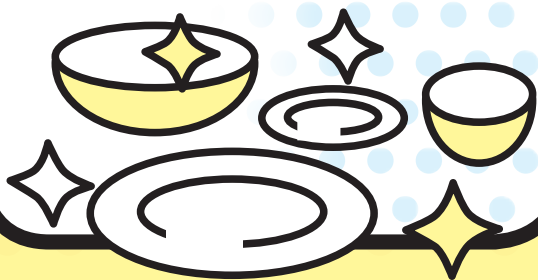
地元産の食材を
選んで食べる



プラスチックは
分けて
捨てる



毎食残さず食べる



水やお湯を
出しっぱなしに
しない



シテル?

環境・地域エネルギー課 (東庁舎 4階 ☎34-3268 📠34-3202)

このチェック項目は、電力や化石燃料の消費抑制、
食品ロスの削減など、二酸化炭素の排出量を減らす
取り組みの一例です。

なぜ今「脱炭素」なの?

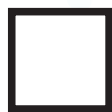
「脱炭素」に取り組まないとどうなるの?

なぜ松本市は、脱炭素社会の実現を目指すの?

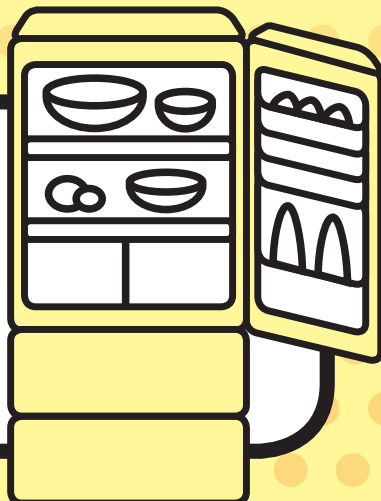
あらためて、一緒に考えてみませんか。



「脱炭素」について
十分理解している



冷蔵庫の
開け閉めは
できるだけ
少なくしている



たくさんチェックが
ついたあなたは
「脱炭素シテル」人!
シテル人もシテナイ人も
次のページへ



危機的な状況

今こそ行動を！ 地球を守る「脱炭素」



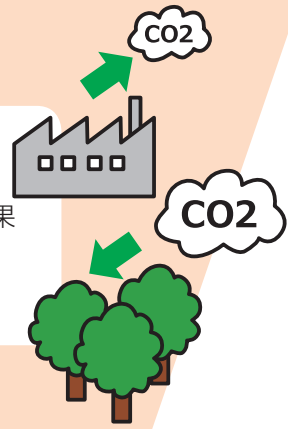
私たち人間の日々の暮らしが、地球温暖化に大きな影響を及ぼしています。急激な気候変動や生態系の破壊など、地球の環境は危機的な状況にあります。

地球温暖化の現状

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告によると、産業革命前と比べ、平均気温が1.09℃上がっていること、今後数十年の間に温室効果ガスの排出量が大幅に削減されない限り、21世紀中に1.5～2℃を超える可能性が非常に高いことが指摘されています。

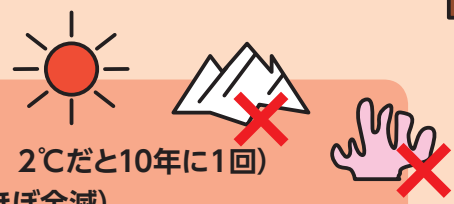
脱炭素とは

二酸化炭素などの温室効果ガスの人為的な排出を抑え、吸収を強化すること



もしも、気温が1.5℃よりも上昇したら…

- ◆ほとんどの地域が極端な高温に
 - ◆海面水位の上昇
 - ◆夏季における北極の海氷の消滅（1.5℃だと100年に1回、2℃だと10年に1回）
 - ◆サンゴ礁への影響（1.5℃だと70～90%死滅、2℃だとほぼ全滅）
- ※IPCCの報告書から



数十年という長い時間軸の中で、わずかとも思える気温の上昇が、環境に大きな影響を与えます。

脱炭素社会を目指して

こうした状況を回避するため、2015年に採択されたパリ協定（地球温暖化対策の国際的な枠組み）で、世界的な平均気温の上昇を、産業革命前と比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求することが示されました。



ピンチを
チャンスに

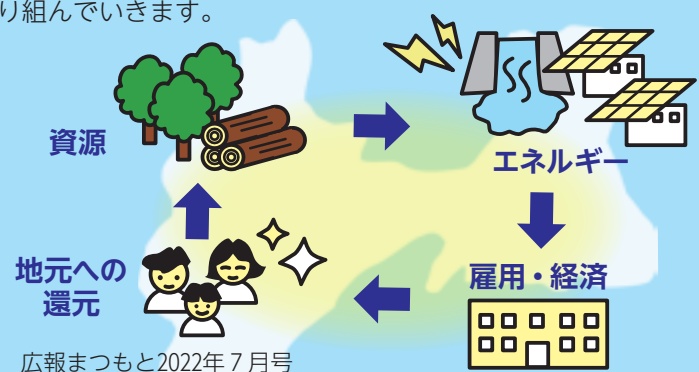
脱炭素は 未来への「投資」

「脱炭素」は、社会や産業構造を大きく転換するもので、世界各国が資金を投入し、力強い成長を生み出す分野となっています。

この分野は、地方都市にとっても人を呼び、雇用をつくり、収益を生み出すチャンスとなるものです。

松本市は、日照時間が長く、豊かな森林資源や水資源、多くの温泉が存在します。こうした地域資源を再生可能エネルギーに変換し、地域内での供給や雇用につなげ、地元へ還元することで、好循環を生み出していきます。

脱炭素社会への転換を、豊かさや幸せを実感できるまちづくりに向けた大きなチャンスと位置づけ、他に先駆けて、松本市はさまざまな施策に取り組んでいきます。



令和2年12月

松本市気候非常事態宣言

令和2年1月

「世界首長誓約／日本」に署名

4本柱で「脱炭素」



ゼロカーボンシティ

の実現を目指して

冒頭でチェックした行動は、とても些細なことでも、危機的状況の地球を守るにはあまり効果がないようにも思えます。しかし、一人ひとりが当事者意識を持ち、今できることから行動を積み重ねることがとても重要です。

市民と事業者と行政がそれぞれの力を結集して、地球を守り、地域経済の好循環を生む、脱炭素社会・ゼロカーボンシティの実現を目指します。

条例に基づいたさまざまな事業

4

地域エネルギー事業会社 設立検討

再生可能エネルギーを地域内で生産・調達・供給するための、中心的な役割を担う会社の設立に向け、専門的な視点から検討を行う調査を進めます。

全ての取り組みの根幹 / R4年6月

松本市ゼロカーボン実現条例の制定

ゼロカーボンを「まちづくりの大原則」として位置づけ、

「市、事業者、市民それぞれの責務」

「今後の施策の基本方針」

「実行計画の策定」などを定めるものです。

「実現」という言葉に込めた思い

「ゼロカーボン推進」ではなく、「実現」としています。これは、危機的状況を回避するためには時間の猶予がないこと、また、世界が脱炭素にシフトし、社会や産業構造の転換期を迎える今、松本市の強みを生かした成長に挑むという強い意思の表れです。



R4年4月

脱炭素先行地域に選定

4月、乗鞍高原が国の脱炭素先行地域に選ばれました。今後は、国からの財政支援を受けながら、脱炭素の取り組みを加速していきます。

今後は、**【山型】 乗鞍高原** **【街型】 波田駅周辺**

を脱炭素のモデルとして確立し、市内全域に広げていきます。



R4年2月

・コンソーシアムの設立

産（地元事業者など）、学（信州大学など）、官（松本市など）、金（市内金融機関など）が連携して、松本地域の脱炭素事業を支援する組織。

定例フォーラムや課題別の部会を通して、地域の脱炭素事業の具現化や発展を図ります。



→2050ゼロカーボンシティの実現を目指すことを表明

→パリ協定の目標達成に向け、地域から貢献する世界的な取り組みに参加

を進めます！

